

もっと知りたい  
病院のこと  
先生のこと

08



1 病院のココが自慢  
病院のあちこちに書かれている絵がかわいい

- 2 患者さんと接する時に大切にしていることは？  
ゆっくりと落ち着いたトーンで話すこと
- 3 医師になろうと思ったきっかけは？  
親の影響があったかと…
- 4 もし、医師になっていなかったら？  
ゆっくり、じっくりとこなしていく職業
- 5 先生が実施している健康法は？  
ウォーキング
- 6 当院に期待すること  
子どものあらゆる病気や相談事に対応できる病院であり続けること

- 7 どっち？  
犬派 猫派  
朝食は 和食 洋食  
休日は インドア派 アウトドア派  
どっちも！
- 8 好きなもの(こと) Best 3!  
1 運動  
2 野球観戦  
3 野鳥観察
- 9 フリースペース  
より良い病院にしたいと考えている皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

2025.08  
vol.45  
四国こどもととな  
https://shikoku-mc.hosp.go.jp

独立行政法人 国立病院機構  
四国こどもととなの医療センター

Shikoku Medical Center for Children and Adults®

# こもれび通信

光と影、人物と植物、バランスを保ちながら循環する命の恵が、全ての人をこもれびのようにやさしく包み込みますように…

四国こどもととなの医療センター附属  
善通寺看護学校  
通信 VOL.1



四国こどもととなの医療センター附属善通寺看護学校です。今年4月に新入生62名を迎え、現在199名の学生が在籍しています。看護学校では、講義や様々な看護技術の習得に向けた演習のほか、母体病院である四国こどもととなの医療センターでの臨地実習を通して、看護についての学習を行っています。

また、学校行事の1つ、看護の日記念行事では、ボランティア活動として母体病院の外壁・外周の清掃、クラブ活動の1つ、園芸クラブはヒーリングガーデンプロジェクトへの参加等も行っていきます。

6~7月にかけて合計3回のオープンカレッジを開催し、多くの高校生・中学生の生徒さん、保護者の方にも参加していただき、学校生活の様子等をご紹介します。

今秋には学生祭を開催予定です。どなたでも参加できますので、ぜひお越しください。

これからも看護学校の取り組みをご紹介しますのでよろしくお願ひします。



Instagram開設

アカウント名 善通寺看護学校 zenkan\_no.1

看護学校や学生生活についての情報をお届けしています。ぜひご覧ください。  
https://x.gd/rDqDI

フォローはこちら

## 我が家の家族ペットのご紹介

循環器内科(副院長) 竹谷善雄さん

### 成長記録

先住猫の琥珀(こはく)の遊び相手に保護猫を迎えました。

生後3か月ごろ 1歳のころ 現在(3歳)

### 我が家のペット自慢

我が家のペット自慢  
うちのアイドル 見せてくださ〜い  
庶務係 宮内良輔

当院の広報誌では、職員が可愛がっているペットを紹介するコーナーを設けています。犬や猫をはじめ、時には少し珍しい動物が登場することもあり、写真やエピソードを通して職員の日常をお届けしています。

ただペットを紹介するだけでなく、動物との日常を紹介することで「職員の人となり」をお伝えしたい—そんな思いから始まった企画です。

仕事中は制服に身を包み、診療などの業務を行っているため、患者さんや地域の皆さまにとっては少し堅い印象を持たれているかもしれません。しかし、ペットと過ごす時にはやさしさや癒やしがあり、人となりがにじみ出ています。

そうした一面をお伝えすることで、私たちがより身近に感じていただき、安心して病院に足を運んでいただけるきっかけになればと願っています。

これからも人と人とのつながりを大切に、温かみのある発信を続けてまいります。

いなほ珈琲  
イナホランチ  
ワッフルセット  
カツカレー  
ケーキもいろいろ!  
おごさまランチ

当院南側庭園にある「いなほ珈琲」では、新メニューを準備して皆様のお越しをお待ちしています! 通院の帰りに、お仕事の合間に、お散歩の途中に患者さんにとってもスタッフの皆さんにとっても地域の方々にとってもほっと安らいでいただける空間づくりを心がけています。



Welcome Healing Garden

Healing Garden Project 2025



# 収穫祭の開催



梅雨の晴れ間となった6月13日(金)に、昨年度より始動した『Healing Garden Project (ヒーリングガーデンプロジェクト)』の活動として、「収穫祭」を開催しました。

管理課 小早川 儀雅



院長のあいさつで開幕

この企画は、開院から12年が経過した当院の特徴の一つである「ホスピタルアート」の新たな始まりとして、当院の地上庭園を活用した庭づくりを通じ、地域の皆さんと共に、より良い生活環境を整えていこうというものです。今年からは善通寺第一高校のデザイン科にもご協力をいただきながら、善通寺市、善通寺商工会議所、総本山善通寺、および陸上自衛隊善通寺駐屯地の関係者の方々との対話を重ねながら、誰もが癒し合える地域のインフラとしての「庭」を目指しています。

第一部の収穫祭では、前田院長による挨拶で幕を開け、本プロジェクトリーダー横田名誉院長が企画趣旨を説明し、続いて各施設の代表者様より温かいお言葉を賜りました。

その後は、これまでの取り組みを山口ホスピタルガーデナー、ホスピタルアートのコンセプトを森ホスピタルアートディレクターが、それぞれ紹介しました。

また、第二部ではアートワークショップを開催し、総本山善通寺様よりお教えいただいた五大(あらゆる世界を構成しているとする地・水・火・風・空の五つの要素)をテーマに、善通寺第一高等学校の生徒さんがデザインしたシェードカーテンを作成し、第三部では屋上庭園で収穫した玉ねぎを使ったスープとスイーツをご賞味いただき、これからの「庭」について想像を膨らませながら、ご参加いただいた皆さんと楽しいひと時を過ごし、『Healing Garden Project』の新たなスタートを切ることができ、今後の展開への期待に胸躍る時間となりました。



屋上庭園産の玉ねぎスープ & スイーツ



参加されたみなさんで記念撮影



この場をお借りして、ご参加いただきました関係者の方々に感謝申し上げますと共に、今後も『Healing Garden Project』を通じて、地域の方々と様々なつながりが生まれることを期待しております。



おしゃれなシェードカーテンが完成!!



力を合わせて作品制作



## パンフレットのご紹介

(今井 剛 小児血液・腫瘍内科医長 著書)

小児がんと向き合うご家族の方へ



小児がんと診断されたとき、多くのご家族は目の前が真っ暗になるような思いを抱かれることでしょう。そんな混乱や不安のなか、「少しでも治療を理解し、子どもを支える力になりたい」という願いを持つご家族に寄り添う一冊として、このパンフレットは作成されました。

本冊子では、小児がんの基本的な情報から、治療の種類、入院中の生活、退院後の見通し、さらには「子どもへの告知」「看護」「緩和ケア」「晚期合併症」まで、多岐にわたる重要なテーマが、わかりやすく、丁寧に解説されています。

医療従事者でない方にも親しみやすく、病気と向き合うご家族の「こころの支え」となるよう構成されています。

このパンフレットの大きな特徴のひとつが、表紙から裏表紙にかけて描かれる「鳥とさくらんぼ」の命の物語です。ページの上部には、一羽の鳥がさくらんぼをくちばしにくわえ、雨の日も風の日も、時に迷いながらも運び続ける姿が描かれ、やがて雛にそのさくらんぼを届ける場面に至ります。

そして、ページの下部には、逆方向にめくることで浮かび上がる、もうひとつの物語があります。それは、運ばれたさくらんぼの種が芽を出し、成長し、やがて花を咲かせ、実を結び、また土へと還り、新たな芽が地面から顔を出す——命のつながりと再生を象徴するストーリーです。

この物語は、懸命に子どもを支え続けるご家族の姿を重ね合わせるように紡がれており、言葉では語りきれない「祈り」や「希望」を静かに伝えてくれます。

さらに巻末には、塗り絵のページも設けられており、入院中の子どもたちに少しでも楽しい時間を届けたいという、やさしい想いが込められています。

パンフレット全体に、「読む人の心に寄り添う工夫」が随所に施されています。単なる医療情報の伝達を超え、ご家族の不安に寄り添い、共に歩もうとする姿勢が伝わってくる一冊です。

正しい知識を得るために。そして、ひとりで悩まないために。

このパンフレットが、子どもとご家族の「これから」の歩みに、そっと寄り添ってくださるようになります。

管理課 庶務係 宮内 良輔

